

# 林業で 地方創生

長野県栄村

「震災をのりこえ、豊かな地域資源を活用した村の再生・復興を」

東日本大震災の翌日(平成23年3月12日)の未明、長野県北部を震源とする地震が発生し、栄村は震度6強の揺れに襲われました。豪雪に加え、過疎化や高齢化に直面していた村では、震災を契機とした更なる人口減少等が危惧される中で、壊れたものをもとに直す「復旧」だけでなく、森林をはじめ村に存在する豊かな地域資源を活用した村の「再生・復興」に取り組んでいます。



# 栄村と震災復興

## 栄村の概要と震災復興計画

栄村は、長野県の最北端に位置し、面積の約9割が森林という自然豊かな村です【写真1】。鳥甲山や苗場山を中心に2km級の山々が連なる山岳地帯であり、我が国有数の豪雪地帯として知られています。これまでの観測記録では、昭和20年2月に7m85cmの積雪を記録したこともあります。

人口は約2千人。65歳以上の高齢者が約半数を占め、過疎化・高齢化に直面していた村を、東日本大震災の翌日、マグニチュード6.7、震度6強の地震が襲いました。幸い、地震による直接の死者はなく、軽傷の負傷者10名の人的被害でしたが、その後、残念なことに避難生活によるストレスや過労を原因



震災発生直後の様子(青倉地区)



震災発生直後の様子(村役場)

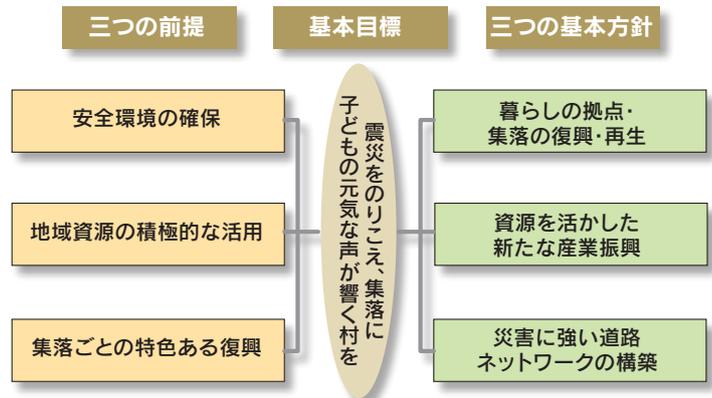
とする災害関連で3名の方が亡くなられました。地震発生後、秋山区を除く26集落において、全住民に避難指示が出され、26

集落の全ての建物で被害が生じた【写真2・3】。このよう

な震災を契機として、村では、平成23年7月に震災復興本部を設置し、壊れたものをもとに直す「復旧」だけでなく、村に存在する豊かな地域資源を活用した村の「再生・復興」に取り組むため、平成24年10月に震災復興計画を策定し、村の復興に取り組んでいます。

震災復興計画では、「震災をのりこえ、集落に子どもが元気に声が響く村を」を基本目標として、「安全環境の確保」、「地域資源の積極的な活用」、「集落ごとの特色ある復興」という3点を前提として、「暮らしの拠点・集落の復興・再生」、「資源を活かした新たな産業振興」、「災害に強い道路ネットワークの構築」という3つの基本方針を掲げています【図1】。

図1 栄村震災復興計画の体系図

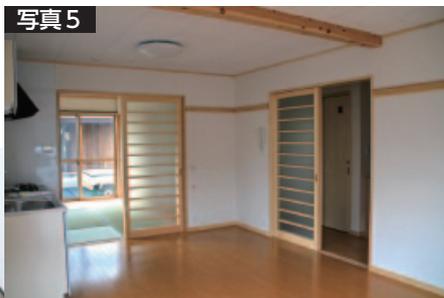


## 地元材を活用した復興住宅の建設

村では、震災により、住宅を失い自立再建が困難な村民の住宅確保や、将来を担う若者の定住支援に向けて、村営の復興住宅18棟、31戸の整備を行い、平成24年11月に竣工しました。

復興住宅は、6地区の集落に分散して整備を行い、

住み慣れた集落のコミュニティの維持に配慮されています。また、地元産のスギやカラマツをふんだんに使用し、高齢者を含め誰もが使いやすいデザインとなっています【写真4・5】。



震災復興住宅(内部)



震災復興住宅(外観)

写真4

# 栄村の林業・木材産業の活性化



写真6

栄村の森林

## 栄村の森林

栄村は、村域の約9割にあたる2万5千haが森林ですが、そのうち約2割が人工林、約8割が天然林となっており、人工林が比較的少ないことが特徴です。また、植栽樹種では、スギが多くなっています。また、豪雪地帯であるため、雪の重みにより樹木の根元が曲がつて成長する根曲りが発生しやすくなっており、曲がつた材をいかに活用するか課題となっています【写真6・7】。

村内の多くを占める天然林は、キノコや山菜といった特産林産物の生産の場ともなっています。



写真7

根曲りスギ



写真8

北野天満温泉



写真9

チップボイラ

## 循環型森林エネルギーの利用

栄村では、豊富に存在する森林資源の活用にも力を入れています。その一つとして、地域資源エネルギーである木質バイオマスを循環利用し、地域の活性化や雇用の創出に取り組んでいます【写真8・9】。

平成26年4月に村内の温泉施設（北野天満温泉）へ木質チップボイラを導入しました。既存の灯油ボイラに併設することで、購入していた灯油の一部を村内で供給可能な木質チップに転換することが可能となりました。また、北野天満温泉は、震災時に避難所として7集落201人を受け入れていましたが、木質チップボイラの導入により、災害時（電源遮断時）においても温浴利用が可能となりました。平成26年度には、前年度と比較し、約3万リットルの灯油を削減することができました。

## 栄村森林組合

栄村森林組合【写真10】は、昭和32年に設立され、栄村を活動区域とする、いわゆる1

村1組合です。平成23年の震災で事務所等甚大な被害を受け、事務所の取り壊し・移転を余儀なくされました。そうした中で、

平成25年9月の豪雨災害で発生した土石流により移転先の事務所が半壊してしまいました。幸い、日曜日に発生した災害であったため、職員への被害はありませんでしたが、購入したばかりのホイールローダ、管理用車両を流失するという大きな被害を受けています【写真11】。



写真11

被災した森林組合



写真10

お話を伺った総務課長の久保田さん

地域の森林を適切に管理していくために不可欠な森林所有者の特定や境界の確定にも積極的に取り組んでいます。国の事業を活用して組合が収集した所有者や森林境界の情報を元に、村が地籍調査を行う取組を進めています。

## 栄村産材の活用

栄村森林組合では、栄村産材の活用に向けて、多様な販売先の確保に取り組んでいます。直材（A材）

を自身の製材工場で建築用材や土木用材として加工しています【写真12】。

また、長野県森林組合連合会を窓口として、地域の森林組合等と一体となって、曲り材（B材）や低質材（C材）を県外の合板工場への供給や中国へ輸出する取組も行っています



写真12

土木用に加工された栄村産スギ

ます。地域が一体となることで、栄村森林組合単独では難しい大口需要先との価格交渉等が可能となっています。

さらに、根曲り材など、これまで活用が図られてこなかった材（D材）を再生可能エネルギーとして利用するため、栄村と連携してチップセンターを設置し、チップの製造にも取り組んでいます。平成27年度に本格稼働し、年間約2千トンのチップを製造し、北野天満温泉に供給するほか、県内のバイオマス発電所に供給する計画となっています【写真13、14】。

## 将来を担う人材の育成

栄村森林組合では、栄村の森林・林業を担う人材の育成にも取り組んでいます。平成23年の震災以降毎年1〜3名を新たに雇用し、国の「緑の雇用」事業を活用して技術の習得や必要な資格の取得に取り組んでいます。積雪の多い栄村では、これまでは冬季の雇用が難しい状況でしたが、若い人材の確保のため、除雪や製材工場での作業等と組み合わせることで、

通年雇用や月給制にも取り組んでいます【写真15】。

また、広い視野をもって地域の森林・林業を牽引する人材を育成するため、県のフォレストコンダクター育成事業を活用して、事務所職員7名の内2名をオーストリアへの研修等へ派遣する取組も行っています。



写真13

導入されたチップパー



写真14

チップに加工された栄村産材



写真15

樋口瞭さん(緑の雇用研修3年目を受講中)

# 森林の恵み・村の暮らしを活かした村の活性化



## 山菜・キノコの振興

栄村の森林の約8割は、ブナなどの天然林で、ナメコやヒラタケなどのキノコ、ネマガリタケや野ブキなどの山菜の宝庫です。栄村には、キノコや山菜を共同して採集、加工、出荷をする「山菜組合」という生産組織がいくつかあり、村の重要な産業の一つとなっています。

栄村の山菜は、深い雪の中で半年近くも春を待ち、うま味の元となる栄養をたっぷり蓄え、春の雪解け



図2 雪萌え山菜ロゴマーク

州・栄村の雪萌え山菜」としてブランド化する取組も  
行っています【図2】。

また、消費者に安全・安心な山菜をお届けするため、村では、村内産の山菜類の放射性物質を検査し、結果を公表しています。これまで食品衛生法上の基

とともに成長しました。こうした栄村の山菜の特徴を活かした販売を行っていくため、栄村では、平成20年に山菜等に使用する「雪萌え」を商標登録し、「北信

準値を超える放射性セシウム等は検出されておらず、安全が確認されています。

栄村では、雪萌え山菜のPRのため、毎年6月に山菜まつりを開催しています。今年の6月14日(日)に栄村村民広場で開催した第8回の山菜まつりでは、竹の子汁の配布や山菜の販売を行いました。ネマガリタケの販売などが盛況でした【写真16】。

さらに、今年の7月10日には、村内の道の駅「信越さかえ」の隣接地に、「栄村直売所かたくり」がオープンしました。春にはネマガリタケなどの山菜、秋にはナメコなどのキノコといった形で、年間を通して栄村の森の恵みを販売していく予定です【写真17】。



写真16

山菜まつりの様子



写真17

栄村直売所かたくり



写真18

直売所に並ぶネマガリタケ

## 村の自然や暮らしを活かした 活性化

「NPO法人信州アウトドアプロジェクト(SOU P・スープ)【写真19】は、信州大学教育学部の卒業生が野外活動の指導等を行うため、立ち上げたNPO法人です。当初、長野市を活動拠点としていましたが、平成23年の震災を契機に栄村に拠点を移しています。定期的に小学生を対象とした宿泊型の教育キャンプを行うなど、栄村の豊かな自然環境を活かして、野外教育やアウトドア・アクティビティに取り組んでいます【写真20】。

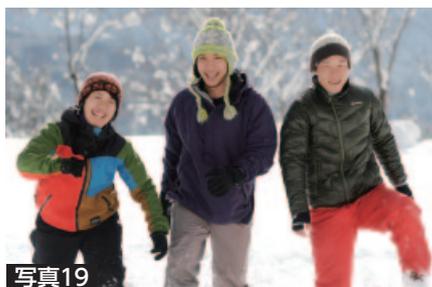


写真19 お話を伺ったSUOPのみなさん



写真20 子どもたちの森遊び

また、平成24年からは、「MURAGURASHI(むらぐらし)」として、栄村のもつ、「昔から守られてきた自然と共生する暮らし」、「信頼と絆から成り立つ暮らし」、「現在だからこそ大切にしたい村の暮らし」を発信することを目的として、季節ごとに村の人との交流を軸としたイベントを開催しています【写真21】。



写真21 MURAGURASHI(軽トラの上で)



写真22 フットパスツアー(ブナ林)

こうした取組を通して、村の住民である「父ちゃん」・「母ちゃん」と都会の子供たちや若者などを結ぶことで、村の魅力の発見や「栄村ファン」の獲得に取り組んでいます。

さらに、栄村の「素」の魅力を訪れた方が自分のペースで楽しんでもらえるよう、「栄村フットパス」として集落と里山を歩くコースの設定にも取り組んでいます。

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする森林や田園地帯、古い町並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことのできる径(こみち)のことです。

今年度からコースを設定し、6月27、28日に設定を記念したフットパスツアーが開催されました。現在は、村内3箇所にもコースを設定していますが、将来は、村内すべての集落にコースを設定することを目指しています【写真22・23】。

写真23 フットパスツアー(田んぼ道)

- 栄村役場 <http://www.vill.sakae.nagano.jp/>
- 栄村秋山郷観光協会 <http://sakae-akiyamago.com/>
- NPO法人信州アウトドアプロジェクト <http://outdoorproject.jp/>

